

令和8年度 大阪市立宮原小学校 学校運営方針

学校教育目標

個性を大切にし、自分と周りの**幸せを生み出す**教育

めざす子ども像

【明るく】

挨拶と感謝を言葉で表し、前向きで、日常に**楽しみを見つけられる子**

【優しく】

人の良いところや、心の痛みに気づき、**仲間とのつながりを大切にする子**

【たくましく】

失敗を恐れず、勇気をもって、何度でも**あきらめずに挑戦する子**

教科指導重点目標

- 語彙を豊かにする指導を通して、自分の思いや考えを豊かに形成し、考えを深める指導の充実を図る
- 日常の事象を数理的に捉え、見通しをもち筋道を立てて考察する力、数学的に考えることや数理的な処理のよさに気づき、生活や学習に活用しようとする態度を育てる
- 学級会議において、自分と相手の考えの相違点から折衷案を導き出し、互いに納得のいく解決策を生み出す経験を重ねることで、新たな価値を生み出す力を養う。



《 育てたい資質・能力 ～主体的・対話的で深い学びをめざして～ 》 求め続ける

- ・**課題を探究する力** 事象をよく見つめ、答えの見えない課題に対して、情報をうのみにせず、自らの疑問を整理して、課題を設定することができる
- ・**解決の構想をする力** 解決の方法や手順を考えながら、情報を収集し、整理し、分析し、更新しながら課題解決に向けた計画をたてることことができる

創り上げる

- ・**分析的に思考し判断する力** 日常生活や学んだ知識から得た事実や根拠をもとに、多角的に思考し、判断することができる
- ・**学びを振り返る力** 問題や方法、結果を吟味し、自身が獲得した学びをまとめ、表現することができる

共に生きる

- ・**共感する力** 自己や他者の考えや行動を尊重し、自分と周りにとって幸せな、納得できる折衷案を考えるようにすることができる
- ・**学びや生活に生かす力** 学んだことを学習や生活に生かそうとすることができる
- ・**情報を適切に活用する力** 情報の危険を察知し、適切な行動をとることができる。

1 学校運営の中期目標

現状と課題

基本方針①「が子どもらしく生きる権利を尊重し、大人も子どもものびのびと夢を語る、自他ともに安心安全な学校づくりを進める。」

大阪市小学校学力経年調査は、令和2年度以降、毎年全学年全教科において市平均正答率を超え、全国学力状況調査においてもすべての領域において全国平均を超えている。学力調査の結果は、全国水準以上の数値で横ばいである。令和7年度の結果によると、国語の正答率の区分ⅠとⅡの合計割合は65.7%、算数は56.3%であった。

課題としては、多くの教育熱心な家庭環境の子どもにとって、テストの点数が自己肯定感の判断基準となっているという現状である。子どもの自己有用感を育て、利他の精神に気づくことから自己肯定感の向上へと結び付けていく。そのために、答えのない課題に対して、学校教育目標である「自分と周りの幸せを生み出す」ことを共通認識とし、対話を通じた学級会議を学校経営の土台とした授業づくりに取り組む。また、本の選書において知育本に偏っている傾向がみられ、多様な生き方や価値観を知り、異なる考えを尊重するために、物語を読むことで豊かな感性を育てていく。不登校対策ルームを開設し、不登校改善率は向上している。「いじめ・問題行動・不登校・児童虐待」には、引き続き組織的対応・即時解決に努め、関係機関との連携を図りながら実施していく。虐待や不登校傾向の児童については、児童理解のあり方や情報共有の機会を充実させ、未然に防止できるよう教師と児童、児童相互の関係性の向上をめざし、すべての子どものSOSを見逃さない学校体制を構築する。取り組んでいく。

基本方針②「Society5.0の時代を生きる子どもに必要な新しい価値観を柔軟に取り入れ、世代を超えて互いに教わり学びあい、保護者の願いや地域の信頼関係に応える。」

保護者に対して、日々の連絡帳やミマモルメ、学校ホームページなどをおして情報提供を丁寧に行う。また、早寝早起きの生活習慣の確立や毎日の食の指導、性教育やLGBTQの知識等、PTAと共同開催による研修を企画したり、formを活用したりして保護者の思いや願いを学校教育に反映し、共に子どもの成長を喜び合える関係を積み上げていく。

また、地域に対しては、朝の登校見守りへの感謝や、地域の行事への児童の参加、学校行事への理解および支援について、毎月定期的に情報共有を実施し開かれた学校運営に努める。

基本方針③メディアリテラシーを身につけ、デジタルとアナログを効果的に活用する。

メディアの特性を理解し、タイムパフォーマンスや、デジタルの技能向上と共に、時間をかけて自分の手で書いたり、本を読んだり、足を運んで実物を見聞きする力も大切に、子ども自身がデジタルとアナログの長所を知り、効果的に使い分ける力を養う。そのために、オンライン集会や学習管理ツール(グーグルクラスルームなど)による学級活動や伝達、デジタルアプリを使った学習やスタディプラン、新聞や学校図書館の利用およびインタビューやフィールドワークの体験も推進していく。

また、大規模災害がいつ発生するかわからない現状において、緊急時や事後において、冷静に正確な情報伝達を行い、非常時でも自他を思いやるコミュニケーションをめざす。オンライン児童集会、教職員の緊急時接続テストの実施やメディアリテラシーの育成を促進し、情報モラルの指導において、共通した認識で児童理解に対応していく。

基本方針④専門性を身につけ教育職に対する情熱と誇りをもって真摯に取り組む。

若手や子育て世代、再任用世代など様々な年代の教職員が、学校のマネジメントに関心を持ち、参画する機会を設け、マンパワーに依存せず組織的な学校運営を構築する。校内OJTを促進し、ベテラン教員が若手の校内研究授業のサポートを支援し、メンターによる若手研修をおして若年層の発想や意見を大事することで伝統と革新を実現する。また、現職教育を通して教職員が双方向に意見を交流し、共に学び続けることの喜びや楽しさを持てる環境を作る。

中期目標

【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】

◆ 基本的な方向 1 安心安全な教育環境の実現

中期①・令和 11 年度の小学校学力経年調査「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、68%以上にする。

(令和 7 年度平均 62.7% : 3 年 53.6%、4 年 66.7%、5 年 66.3%、6 年 64.1%)

中期②・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

◆ 基本的な方向 2 豊かな心の育成

中期③・令和 11 年度の小学校学力経年調査「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることができますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、85%以上にする。(新項目)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

◆ 基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上

中期①・小学校学力経年調査における、国語のボリュームゾーンにあたる層の変化率について、小 3 時点での層の小 6 時点での変化率を向上させる。

中期②・小学校学力経年調査における、算数のボリュームゾーンにあたる層の変化率について、小 3 時点での層の小 6 時点での変化率を向上させる。

中期③・令和 11 年度の小学校学力経年調査・校内調査の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」について、肯定的に回答する児童の割合を、80%以上にする。

(令和 7 年平均 79.8% : 3 年 75.2%、4 年 82.4%、5 年 86.0%、6 年 75.7%)

◆ 基本的な方向 5 健やかな体の育成

中期④・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 84%以上にする。

(令和 7 年平均 83.8% : 3 年 88.6%、4 年 89.2%、5 年 77.6%、6 年 79.6%)

【学びを支える教育環境の充実】

◆ 基本的な方向 6 教育 DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進

中期①・小学校学力経年調査における「学習者用端末を活用して、自分のペースで理解しながら学習を進めていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 83%以上にする。

(令和 7 年平均 80.7% : 3 年 81.4%、4 年 80.4%、5 年 82.2%、6 年 78.7%)

中期②・令和 11 年度の小学校学力経年調査における「インターネットや生成 AI、SNS 等を活用する時に、情報の確かさを確認したり、悪口やいじめにつながる内容を扱わないよう注意していますか。」に対して肯定的に回答をする児童（生徒）の割合を、92%以上にする。

(令和 7 年平均 90.7% : 3 年 89.7%、4 年 87.3%、5 年 90.7%、6 年 95.2%)

◆ 基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり

中期③・「学校園における働き方改革アクションプラン【2026-2029】」に基づき教員の時間外勤務時間上限基準の基準1（以下ア及びイ）達成率を84%以上にする。
(R7年度末 83.78)

ア 1か月の時間外勤務時間が45時間を超えないようにすること

イ 1年間の時間外勤務時間が360時間を超えないようにすること

◆ 基本的な方向8 生涯学習の支援

中期④・小学校学力経年調査における「学校図書館や学級文庫、読書コーナーなど、学校内にあなたの読みたい本がありますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を65%以上にする。（新項目）

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

◆ 基本的な方向1 安心安全な教育環境の実現

- ① 全国学力・学習状況調査の「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、64%以上にする。
- ② 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

◆ 基本的な方向2 豊かな心の育成

- ③ 小学校学力経年調査「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることができますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、83%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

◆ 基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上

- ① 小学校学力経年調査における、国語のボリュームゾーンにあたる層の変化率を前年度より向上させる。
- ② 小学校学力経年調査における、算数のボリュームゾーンにあたる層の変化率を前年度より向上させる。
- ③ 小学校学力経年調査・校内調査の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」について、肯定的に回答する児童の割合を、81%以上にする。

◆ 基本的な方向5 健やかな体の育成

- ④ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を84.5%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

◆ 基本的な方向6 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進

- ① 小学校学力経年調査における「学習者用端末を活用して、自分のペースで理解しながら学習を進めていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を81%以上にする

②小学校学力経年調査における「インターネットや生成A I、SNS等を活用する時に、情報の確かさを確認したり、悪口やいじめにつながる内容を扱わないよう注意していますか。」に対して肯定的に回答をする児童（生徒）の割合を、91%以上にする

③教員の時間外勤務時間上限基準の基準1（以下ア及びイ）達成率を84%以上にする。

（R7年度末 83.78）

ア 1か月の時間外勤務時間が45時間を超えないようにすること

イ 1年間の時間外勤務時間が360時間を超えないようにすること

◆ **基本的な方向8 生涯学習の支援**

④小学校学力経年調査における「学校図書館や学級文庫、読書コーナーなど、学校内にあなたの読みたい本がありますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を60%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

--